

膀胱癌の治療におけるハイパーサーミアの意義

原三信病院 放射線治療・ハイパーサーミアセンター

寺嶋廣美、古藤和浩 元村哲也、真鍋麻美、永田詢也、嶽本洋

原三信病院では 2012 年 5 月よりハイパーサーミアを開始して 7 年が経過した。その間行った加温例は 415 名であった。疾患別では膵臓癌が最も多く、次いで大腸癌、肺癌、乳癌、膀胱癌、胃癌であった。多くは進行例、再発または転移例であり、原発例の初期治療に組み込まれる症例は多くなかった。その中で、膀胱癌では初回の放射線治療とハイパーサーミアの併用が 6 例、術後再発例 1 例に行われた。

放射線治療はトモセラピーを用いた IMRT にて 60 Gy,/30Fr。ハイパーサーミアはサーモトロン RF8 を用いて 1 回 50 分、計 5-10 回行われた。治療効果は膀胱癌 CR 6, PR 1 (術後再発) であった。膀胱癌の 3 例は 3 年~4 年 2 カ月、再発なく生存中である。他に QOL の向上に寄与した例では、尿管癌の術後、尿管膀胱移行部に再発の 1 例は高度の血尿があったが一時的に消失した。前立腺がんの膀胱浸潤例では、疼痛軽減と自己導尿が不要となり、意義があったと考えられた。以上、骨盤腔内の加温は比較的容易であり、放射線の増感効果が期待され、積極的に用いられる治療法であると考えられた。